

**有効成分ジンプロピリダズを含有する申請農薬の
使用方法及び薬効・薬害試験結果概要**

1. エフィコンSL（ジンプロピリダズ 10.8%液剤）

(1) 使用方法

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数		
りんご	アブラムシ類 カイガラムシ類	1000~2000倍	200~700 L/10 a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内		
なし		1000倍							
もも		1000~2000倍							
おうとう	カイガラムシ類	1000倍		収穫前日まで	2回以内				
ぶどう	オウトウショウジョウバエ	1000倍							
キャベツ	アブラムシ類	250倍	セル成型育苗トレイ1箱または ^ヘ - ^バ - ^ホ ット1冊(30×60 cm、使用土壤約1.5~4 L) 当り0.5 L	定植当日	1回	灌注			
はくさい	アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (但し、定植時までの灌注処理は1回以内、散布は2回以内)		
		1000倍							
ブロッコリー	アブラムシ類	250倍	セル成型育苗トレイ1箱または ^ヘ - ^バ - ^ホ ット1冊(30×60 cm、使用土壤約1.5~4 L) 当り0.5 L	定植当日	1回	灌注	3回以内 (但し、定植時までの灌注処理は1回以内、散布は2回以内)		
		1000~2000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2回以内	散布			
		250倍	セル成型育苗トレイ1箱または ^ヘ - ^バ - ^ホ ット1冊(30×60 cm、使用土壤約1.5~4 L) 当り0.5 L	定植当日	1回	灌注			
		1000~2000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2回以内	散布			
レタス類	アブラムシ類	250倍	セル成型育苗トレイ1箱または ^ヘ - ^バ - ^ホ ット1冊(30×60 cm、使用土壤約1.5~4 L) 当り0.5 L	定植3日前~定植当日	1回	灌注	3回以内 (但し、定植時までの灌注処理は1回以内、散布は2回以内)		
		1000~2000倍	100~300 L/10 a						
トマト ミニトマト	コナジラミ類 アブラムシ類	500倍	50 mL/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内 (但し、定植時までの灌注処理は1回以内、散布は2回以内)		
		1000~2000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2回以内	散布			
	コナジラミ類 アザミウマ類 トマトサビタニ	1000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2回以内	散布			
	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50 mL/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注			
なす	アブラムシ類 コナジラミ類	1000~2000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (但し、定植時までの灌注処理は1回以内、散布は2回以内)		
	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	1000倍							

作物名	適用 病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジンピリダズ を含む農薬の 総使用回数	
ビーマン	アブラムシ類 コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注	3 回以内 (但し、定植 時までの灌注 処理は 1 回以 内、散布は 2 回以内)	
	アブラムシ類	1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布		
	コナジラミ類	1000 倍		定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注		
いちご	アブラムシ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注	3 回以内 (但し、定植 時までの灌注 処理は 1 回以 内、散布は 2 回以内)	
		1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布		
	アザミウマ類	1000 倍		定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注		
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注	3 回以内 (但し、定植 時までの灌注 処理は 1 回以 内、散布は 2 回以内)	
	アブラムシ類	1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布		
	コナジラミ類 アザミウマ類	1000 倍		定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注		
すいか	アブラムシ類 コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注	3 回以内 (但し、定植 時までの灌注 処理は 1 回以 内、散布は 2 回以内)	
	アブラムシ類	1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布		
	コナジラミ類	1000 倍		定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注		
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注	3 回以内 (但し、定植 時までの灌注 処理は 1 回以 内、散布は 2 回以内)	
	ア布拉ムシ類	1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布		
	コナジラミ類	1000 倍		定植当日	1 回	育苗 ホット 灌注		
てんさい	アブラムシ類	100 倍	ペーハーホット 1 冊 当たり 1 L(3 L/m ²)	定植当日	1 回	灌注	3 回以内 (但し、植付 時の植溝内土 壌散布は 1 回以 内、散布は 2 回以内)	
		2000~3000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布		
ばれいしょ		100 倍	20 L/10 a	植付時	1 回	植溝内 土壤 散布		
		2000~3000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布		
だいす		2000~4000 倍		収穫前日 まで		2 回以内		
茶	チャノミドリヒメ ヨコバイ チャキロアザ ミウマ	500~1000 倍	200~400 L/10 a	摘採 14 日前 まで				

(2) 薬効

① りんご

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-1 : エフィコン S L (ジンプロピリダズ 10.8 %乳剤) の薬効・薬害試験 (りんご、アブラムシ類) 結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
りんご	長野 H29	エキヤギアブラムシ	甚	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
りんご	青森 H30	エキヤギアブラムシ	中	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかつた。	薬害は認められなかつた。
りんご	岩手 H30	リンゴミドリアブラムシ	多	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
りんご	長野 H30	エキヤギアブラムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かつた。	薬害は認められなかつた。
りんご	長野 H30	エキヤギアブラムシ	多	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かつた。	薬害は認められなかつた。
りんご	山梨 H30	エキヤギアブラムシ	多→甚	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
りんご	山梨 H30	エキヤギアブラムシ	多→甚	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
りんご	青森 R1	エキヤギアブラムシ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
りんご	青森 R1	エキヤギアブラムシ	少	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かつた。	薬害は認められなかつた。
りんご	岩手 R1	リンゴミドリアブラムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
りんご	福島 R1	リンゴクビレアブラムシ	中→少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
りんご	福島 R1	リンゴクビレア アブラムシ	中→少	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
りんご	山梨 R1	ユキヤナギアブ ラムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
りんご	山梨 R1	ユキヤナギアブ ラムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

② なし

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-2：エフィコン SL の薬効・薬害試験（なし、アブラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
なし	千葉 R2	ナシアブランシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
なし	茨城 R2	ユキヤナギア ブランシ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
なし	山梨 R2	ユキヤナギア ブランシ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
なし	山梨 R2	ユキヤナギア ブランシ	中→多 (放虫)	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
なし	滋賀 R2	ユキヤナギア ブランシ ワタアブランシ	中 中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
なし	滋賀 R2	ユキヤナギア ブランシ ワタアブランシ	中 中	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
なし	佐賀 R2	ワタアブランシ	多 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
なし	福岡 R2	ワタアブランシ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
なし	千葉 R3	ナシアブランシ	中	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

表 1-3 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（なし、カイガラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
なし	長野 H30	クワコナカイ ガラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	長野 R1	クワコナカイ ガラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

(3) もも

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-4 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（もも、アブラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
もも	愛知 R3	モモコキアブラ ムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 R3	モモコキアブラ ムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-5 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（もも、カイガラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
もも	山梨 H29	ウメシロカイガラ ムシ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 H30	ウメシロカイガラ ムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	長野 R1	ウメシロカイガラ ムシ	少~多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 R1	ウメシロカイガラ ムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
もも	福島 R2	ウメシカイガラ ムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかつた。
もも	愛知 R2	フジコカイガ ムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
もも	山梨 R2	ウメシカイガラ ムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かつた。	薬害は認められなかつた。
もも	福岡 R2	フジコカイガ ムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

④ おうとう

薬効・薬害試験の結果、オウトウショウジョウバエに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-6：エフィコン SL の薬効・薬害試験（おうとう、オウトウショウジョウバエ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
おうと う	山梨 H30	オウトウショウジ ヨウバエ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
おうと う	山形 R1	オウトウショウジ ヨウバエ	多 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かつた。	薬害は認められなかつた。
おうと う	山梨 R1	オウトウショウジ ヨウバエ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかつた。	薬害は認められなかつた。

⑤ ぶどう

薬効・薬害試験の結果、チャノキイロアザミウマに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-7 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（ぶどう、チャノキイロアザミウマ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ぶどう	山梨 H30	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ぶどう	三重 H30	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ぶどう	長野 R1	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
ぶどう	三重 R1	チャノキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
ぶどう	三重 R2	チャノキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ぶどう	山梨 R2	チャノキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
ぶどう	三重 R3	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
ぶどう	山梨 R3	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑥ キャベツ

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-8 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（キャベツ、アブラムシ類、灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/箱又は L/冊)*	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	群馬 H29	モモアカアブラムシ	少→中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	山梨 H29	モモアカアブラムシ	中→少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	本剤処理 7 日後より葉の奇形症状が認められた。処理 14 日後には対照区及び無処理区と比較して生育遅延が認められ、この症状は処理 42 日後でも観察された。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/箱又は L/冊)*	使用時期	使用方法	薬効	薬害
									め、実用上問題があると考えられた。
キヤベツ	岩手 R1	モモアカアブラムシ ダニコンアブラムシ	中少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
キヤベツ	群馬 R1	モモアカアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
キヤベツ	三重 R1	モモアカアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
キヤベツ	宮崎 R2	ダニコンアブラムシ ニセダニコンアブラムシ モモアカアブラムシ	少 少 少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

* : 箱はセル成型育苗トレイ、冊はペーパーポット (30×60 cm、使用土壤約 3~4 L) を示す。

表 1-9：エフィコン SL の薬効・薬害試験（キャベツ、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	群馬 H29	ダニコンアブラムシ	少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岡山 H29	ニセダニコンアブラムシ	少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岩手 H30	モモアカアブラムシ ダニコンアブラムシ	中少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岩手 H30	モモアカアブラムシ ダニコンアブラムシ	中少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	群馬 H30	ダニコンアブラムシ	中	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	群馬 H30	ダニコンアブラムシ	中	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	奈良 H30	モモアカアブラムシ	多	1,000 0.011	定植 活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	奈良 H30	モモアカア布拉ムシ	多	2,000 0.005	定植 活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮城 R1	ダニコンア布拉ムシ	多	1,000 0.011	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮城 R1	ダニコンアブラムシ	多	2,000 0.005	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岩手 R1	モモアカア布拉ムシ ダニコンア布拉ムシ	中少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	群馬 R1	モモアカア布拉ムシ	中→少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	群馬 R1	モモアカアブラムシ	中→少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-10 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（キャベツ、アザミウマ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	岩手 R3	ズガツボウ	多	1,000 0.011	定植 活着期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	神奈川 R3	ズガツボウ	中	1,000 0.011	定植 活着期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑦ はくさい

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-11 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（はくさい、アブラムシ類、灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/箱又は L/冊)*	使用時期	使用方法	薬効	薬害
はくさい	愛知 R1	ニセダイコソアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められ た。	薬害は認められなかつ た。
はくさい	和歌山 R1	ニセダイコソアブラムシ	少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなかつ た。
はくさい	宮崎 R1	ニセダイコソアブラムシ	少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなかつ た。
はくさい	茨城 R2	モモアカアブラムシ ニセダイコソアブラムシ	少 少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められ た。	薬害は認められなかつ た。
はくさい	愛知 R2	モモアカアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められ た。	薬害は認められなかつ た。
はくさい	千葉 R3	モモアカアブラムシ (放虫)	中 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められなかつ た。
はくさい	茨城 R3	ニセダイコソアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められ た。	薬害は認められなかつ た。

* : 箱はセル成型育苗トレイ、冊はペーパーポット (30×60 cm、使用土壤約 3~4 L) を示す。

表 1-12 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（はくさい、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
はくさい	茨城 H30	ニセダイコソアブラムシ	少	2,000 0.005	結球期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認められなかつ た。
はくさい	宮崎 H29	ニセダイコソアブラムシ	多	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認められなかつ た。
はくさい	長野 H30	モモアカアブラムシ	中	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認められなかつ た。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
はくさい	長野 H30	モモアカアブラムシ	中	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
はくさい	和歌山 H30	ニセダイコンアブラムシ	多	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
はくさい	和歌山 H30	ニセダイコンアブラムシ	多	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
はくさい	茨城 R1	モモアカアブラムシ	少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
はくさい	茨城 R1	モモアカアブラムシ	少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
はくさい	長野 R1	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	結球期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかつた。
はくさい	長野 R1	モモアカア布拉ムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	結球期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかつた。
はくさい	愛知 R1	ニセダイコンアブラムシ	多	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
はくさい	愛知 R1	ニセダイコンア布拉ムシ	多	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
はくさい	和歌山 R1	ニセダイコンア布拉ムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
はくさい	和歌山 R1	ニセダイコンア布拉ムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

⑧ ブロッコリー

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-13 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（プロッコリー、アブラムシ類、灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/箱又は L/冊)*	使用時期	使用方法	薬効	薬害
プロッコリー	岩手 R2	モモアカアブラムシ ダイコンアブラムシ	少 少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
プロッコリー	茨城 R2	モモアカアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
プロッコリー	愛知 R2	モモアカアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
プロッコリー	宮崎 R2	ニセダイコンアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
プロッコリー	茨城 R3	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
プロッコリー	香川 R3	ニセダイコンアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
プロッコリー	宮崎 R3	ニセダイコンアブラムシ モモアカアブラムシ	少 (放虫) 少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

* : 箱はセル成型育苗トレイ、冊はペーパーポット (30×60 cm、使用土壤約 3~4 L) を示す。

表 1-14 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（プロッコリー、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害	薬害
プロッコリー	岩手 R2	モモアカアブラムシ ダイコンアブラムシ	少 少	1,000 0.011	葉展 開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	薬害は認められなかった。
プロッコリー	愛知 R2	モモアカアブラムシ	中	1,000 0.011	葉展 開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	薬害は認められなかった。
プロッコリー	愛知 R2	モモアカア布拉ムシ	中	2,000 0.005	葉展 開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	香川 R2	モモアカアブラムシ	中	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	香川 R2	モモアカアブラムシ	中	2,000 0.005	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	宮崎 R2	ニセダニソニア ブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	定植活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	宮崎 R2	ニセダニソニア ブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	定植活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	茨城 R3	ニセダニソニア ブラムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	愛知 R3	ニセダニソニア ブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

表 1-15 : エフィコン SL の薬効・薬害試験 (ブロッコリー、アザミウマ類) 結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	岩手 H30	ズシアザミウマ	多	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	茨城 H30	ズシアザミウマ	少→中	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かつた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	愛知 H30	ズシアザミウマ	中	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	岩手 R1	ズシアザミウマ	中	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	群馬 R1	ズシアザミウマ	甚	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かつた。	薬害は認められなかつた。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	兵庫 R1	ズアザミウマ	少→多	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
ブロッコリー	香川 R1	ズアザミウマ	多	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かつた。	薬害は認められなかつた。

⑨ レタス類

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-16 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（レタス、アブラムシ類、灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量(L/箱 又は L/ 冊) *	使用時期	使用方法	薬効	薬害
レタス	長野 R1	チューリップヒゲナガアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	愛知 R1	タイワンヒゲナガアブラムシ	中→少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	茨城 R1	タイワンヒゲナガアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	高知 R1	タイワンヒゲナガアブラムシ	中 (放虫)	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	長野 R2	チューリップヒゲナガアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	愛知 R2	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	少	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	茨城 R3	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植3日前	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	長野 R3	ジヤガモヒゲナガア布拉ムシ	少	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

* : 箱はセル成型育苗トレイ、冊はペーパーポット (30×60 cm、使用土壤約 3~4 L) を示す。

表 1-17 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（レタス、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
レタス	茨城 H29	モモアカアブラムシ	中→少 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	高知 H29	タイワンヒゲナガアブラムシ	中→少 (放虫)	2,000 0.005	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	茨城 H30	タイワンヒゲナガアブラムシ	中	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	茨城 H30	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	中	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	愛知 H30	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	愛知 H30	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	高知 H30	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	高知 H30	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	中→多 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	長野 R1	チューリップヒゲナガア布拉ムシ	少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	長野 R1	チューリップヒゲナガア布拉ムシ	少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	奈良 R1	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	奈良 R1	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
レタス	愛知 R2	タイワンヒゲナガア布拉ムシ	中	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

⑩ トマト及びミニトマト

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類及びトマトサビダニに対して無処理区と比べて効果が認められた。

ミニトマトのアブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類及びトマトサビダニに対する効果については、トマトの試験で評価した。

表 1-18 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（トマト、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果

概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	福岡 R2	モモアガアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	鹿児島 R3	チューリップヒゲナ ガアブラムシ	少→多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。

表 1-19 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（トマト、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果

概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	高知 H29	タバココナジラミ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て十分な効果が認め られた。	薬害は認められ なかった。
トマト	宮崎 H29	タバココナジラミ	少→中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て効果が認められ た。	薬害は認められ なかった。
トマト	茨城 H30	オシツコナジラミ	多→甚 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て効果が認められ た。	薬害は認められ なかった。
トマト	高知 H30	タバココナジラミ	中 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て効果が認められ た。	薬害は認められ なかった。
トマト	宮崎 H30	タバココナジラミ	中→多	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て十分な効果が認め られた。	薬害は認められ なかった。
トマト	神奈川 R1	オシツコナジラミ タバココナジラミ	少 多	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て十分な効果が認め られた。	薬害は認められ なかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用液量 (mL/株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	宮城 R1	オニシコナジラミ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

表 1-20 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（トマト、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果		
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害	
トマト	高知 H30	モモアカアブラムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	
トマト	高知 H30	モモアカアブラムシ	少	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	
トマト	奈良 R1	チューリップヒゲナ ガアブラムシ (放虫)	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	
トマト	奈良 R1	チューリップヒゲナ ガアブラムシ (放虫)	少	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	
トマト	高知 R1	モモアカアブラムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	
トマト	高知 R1	モモアカアブラムシ	少	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	
トマト	福岡 R1	モモアカアブラムシ (放虫)	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	
トマト	福岡 R1	モモアカアブラムシ (放虫)	中	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	
トマト	奈良 R2	ワタアブラムシ (放虫)	多→少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	
トマト	高知 R2	モモアカアブラムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。	

表 1-21 : エフィコン SL の薬効・薬害試験結果概要（トマト、コナジラミ類、散布）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	静岡 H29	タバコナジラミ (放虫)	多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
トマト	高知 H29	タバコナジラミ (放虫)	多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	宮崎 H29	タバコナジラミ	多	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮城 H30	オシンコナジラミ	中	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	神奈川 H30	タバコナジラミ	少	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	神奈川 R1	オシンコナジラミ	少	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	静岡 R1	タバコナジラミ (放虫)	多	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 H30	タバコナジラミ	少	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-22 エフィコン SL の薬効・薬害試験結果概要 (トマト、アザミウマ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	神奈川 R2	ミカンキロアザミウマ (放虫)	少→多	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	神奈川 R3	ミカンキロアザミウマ (放虫)	中	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-23 : エフィコン SL の薬効・薬害試験 (トマト、トマトサビダニ) 結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	大阪 R1	トマトサビダニ (放虫)	中	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 R1	トマトサビダニ (放虫)	中	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	三重 R2	トマトサビダニ (放虫)	多	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	大阪 R2	トマトサビダニ (放虫)	多	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 R2	トマトサビダニ (放虫)	多	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	徳島 R3	トマトサビタニ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑪ なす

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、コナジラミ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-24 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（なす、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/ 株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
なす	茨城 R2	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ ジヤガキヒゲナ カアブラムシ	少→多 少 少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	岡山 R2	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	福岡 R2	モモアカアブラムシ	中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	千葉 R3	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	茨城 R3	モモアカアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R3	モモアカアブラムシ ワタアブラムシ	多少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-25 エフィコン SL の薬効・薬害試験結果概要（なす、コナジラミ類、育苗ポット灌注）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害

なす	滋賀 R2	オンシツコナジラミ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R2	タバココナジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-26 : エフィコン SL の薬効・薬害試験 (なす、アブラムシ類、散布) 結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
なす	奈良 R1	ワタアブラムシ	多→甚	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	新潟 R3	ワタアブラムシ	甚	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	新潟 R3	ワタアブラムシ	甚	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	大阪 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	大阪 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	山梨 R3	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 R3	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R3	ワタアブラムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-27 : エフィコン SL の薬効・薬害試験 (なす、コナジラミ類、散布) 結果概要

作物名		対象病害虫	試験条件	結果
-----	--	-------	------	----

	実施場所 実施年度	害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
なす	山口 H29	タバコナゾラミ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果 が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	高知 H29	タバコナゾラミ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 H30	タバコナゾラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	徳島 H30	タバコナゾラミ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	高知 H30	タバコナゾラミ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 R1	タバコナゾラミ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	徳島 R1	タバコナゾラミ	多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果 が認められなかった。	薬害は認められなかった。

表 1-28 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（なす、アザミウマ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
なす	茨城 H30	ミカンキイロアザミウマ	多→甚	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
なす	高知 H30	ミカンキイロアザミウマ 祥アザミウマ	中→多 中→少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	茨城 R1	ミカンキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	滋賀 R1	ミカンキイロアザミウマ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	高知 H30	ミカンキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	福岡 R1	ミカンキイロアザミウマ	多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R1	ミカンキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

(12) ピーマン

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びコナジラミ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-29 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（ピーマン、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/株)	使用時期	使用方法	薬効
ピーマン	高知 H29	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。
ピーマン	宮崎 H29	モモアカアブラムシ	中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。
ピーマン	茨城 H30	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ピーマン	高知 H30	モモアカアブラムシ ワタアブラムシ	多→少 中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 H30	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	少 少→中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	岩手 R1	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	多 少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-30 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（ピーマン、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/ 株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ピーマン	鹿児島 R2	タバココナジラミ	少→中 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	沖縄 R2	タバココナジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-31 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（ピーマン、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ピーマン	岩手 R2	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	岩手 R2	ワタアブラムシ	中	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R2	ワタアブラムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

ピーマン	茨城 R2	ワタア布拉ムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R2	ワタア布拉ムシ	多	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R2	ワタア布拉ムシ	多	2,000 0.005	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R2	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R2	モモアカア布拉ムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R3	ワタア布拉ムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R3	モモアカア布拉ムシ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-32 : エフィコン SL の薬効・薬害試験 (ピーマン、コナジラミ類、散布) 結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効
ピーマン	高知 H29	タバココナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 H30	タバココナジラミ	甚 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	鹿児島 H30	タバココナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 H29	タバココナジラミ	少	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R1	タバココナジラミ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R1	タバココナジラミ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	鹿児島 R1	タバココナジラミ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	沖縄 R1	タバココナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑬ いちご

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-33 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（いちご、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/ 株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
いちご	宮城 R2	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認められなかつた。
いちご	栃木 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
いちご	茨城 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
いちご	静岡 R2	ワタアブラムシ	中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
いちご	奈良 R2	ワタアブラムシ	中→多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
いちご	滋賀 R2	ワタアブラムシ	甚	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
いちご	滋賀 R3	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

表 1-34 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（いちご、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫 名	発生 量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使 用 方 法	薬効	薬害
いちご	静岡 R2	ワタアブ ラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散 布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
いちご	静岡 R2	ワタアブ ラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	収穫期	散 布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
いちご	奈良 R2	ワタアブ ラムシ	多	1,000 0.011	収穫期	散 布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認められなかつた。
いちご	香川 R2	ワタアブ ラムシ	甚 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散 布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められなかつた。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
いちご	香川 R2	ワタアブ ラムシ	甚 (放虫)	2,000 0.005	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	福岡 R2	ワタアブ ラムシ	中	1,000 0.011	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	福岡 R2	ワタアブ ラムシ	中	2,000 0.005	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	長崎 R2	ワタアブ ラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	長崎 R2	ワタアブ ラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	福岡 R3	ワタアブ ラムシ	中	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-35 : エフィコン SL の薬効・薬害試験 (いちご、アザミウマ類) 結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
いちご	山梨 H30	カンキイロアザミウマ	少 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	高知 H30	ヒラズハナアザミウマ	中	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
いちご	佐賀 H30	ヒラズハナアザミウマ	多	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
いちご	栃木 R1	カンキイロアザミウマ	多 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
いちご	滋賀 R1	カンキイロアザミウマ	少→多	1,000 0.011	開花期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
いちご	福岡 R1	ヒラズハナアザミウマ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	佐賀 R1	ヒラズハナアザミウマ	少 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑭ きゅうり

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、コナジラミ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-36 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/ 株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	岩手 H30	ワタアブラムシ	甚	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 H30	ワタアブラムシ	中 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 H30	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R1	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	山口 R1	ワタアブラムシ	少→ 甚 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R1	ワタアブラムシ	中→ 多	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-37 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/ 株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	茨城 H29	オンシコナ ジラミ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 H29	タバココナ ジラミ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 H30	オンシコナ ジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 H30	タバココナ ジラミ	中→多	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用液量 (mL/ 株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	宮崎 H30	タバコナ ジラミ	少→中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R1	オニシツコナ ジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	山口 R1	タバコナ ジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R1	タバコナ ジラミ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-38 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果		
		害虫 名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用 時期	使 用 方 法	薬効	薬害	
きゅうり	群馬 R2	ワタアブ ムシ	多→甚 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散 布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	
きゅうり	茨城 R2	ワタアブ ムシ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散 布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	
きゅうり	茨城 R2	ワタアブ ムシ	中	2,000 0.005	開花・ 結果期	散 布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	
きゅうり	山口 R2	ワタアブ ムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散 布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。	
きゅうり	宮崎 R2	ワタアブ ムシ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散 布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	處理 13 日後調査で薬液の付着した葉(本葉 1~3 枚目)で葉縁が白化する軽微な薬害が認められた。薬害はその後の生育に影響は無く、実用上の問題は無いと思われた。	

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	奈良 R3	ワタアブミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	奈良 R3	ワタアブミ	中 (放虫)	2,000 0.005	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	徳島 R3	ワタアブミ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	埼玉 R4	ワタアブミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	埼玉 R4	ワタアブミ	中 (放虫)	2,000 0.005	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-39 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、コナジラミ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	宮城 R2	オシツコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R2	オシツコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R2	タバコナジラミ	中	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R2	タバコナジラミ	多	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	千葉 R3	オシツコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R3	タバコナジラミ	中→多	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-40 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、アザミウマ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	高知 H30	けきロアザミウマ ズキアザミウマ	中→多 多→中	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 H30	けきロアザミウマ	中→多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R1	ズキアザミウマ ミカンキロアザミウマ	少 少	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	大阪 R1	ズキアザミウマ	多→中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	滋賀 R1	ミカンキロアザミウマ	中	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	福岡 R1	けきロアザミウマ	多	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R1	けきロアザミウマ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	滋賀 R3	ミカンキロアザミウマ	少	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

(15) すいか

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びコナジラミ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-41 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（すいか、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/ 株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
すいか	茨城 R2	ワタアブラムシ	中→少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	山梨 R2	ワタアブラムシ	中→極少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	和歌山 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	滋賀 R2	ワタアブラムシ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 R2	ワタアブラムシ	甚	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	滋賀 R3	ワタアブラムシ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 R3	ワタアブラムシ	少→甚	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-42 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（すいか、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/ 株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
すいか	滋賀 R2	オニシコナジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 R2	タバコナジラミ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-43 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（すいか、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
すいか	鳥取 H29	ワタアブラムシ	甚	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	高知 H29	ワタアブラムシ	中	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	鳥取 H30	ワタアブラムシ	甚	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	鳥取 H30	ワタアブラムシ	甚	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	高知 H30	ワタアブラムシ	中→多	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	高知 H30	ワタアブラムシ	中→多	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	新潟 R1	ワタアブラムシ	甚	1,000 0.011	開花 着果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	新潟 R1	ワタアブラムシ	甚	2,000 0.005	開花 着果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	山梨 R1	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	山梨 R1	ワタア布拉ムシ	中	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	鳥取 R1	ワタア布拉ムシ (放虫)	甚	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	鳥取 R1	ワタア布拉ムシ (放虫)	甚	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 R2	ワタア布拉ムシ	多	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-44 エフィコン SL の薬効・薬害試験（すいか、コナジラミ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
すいか	滋賀 R2	オシツコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 R2	タバコナジラミ	少	1,000 0.011	開花 着果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

(16) メロン

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びコナジラミ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-45：エフィコン SL の薬効・薬害試験（メロン、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果		
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/ 株)	使用時期	使用方法	薬効	
メロン	茨城 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	高知 R2	ワタアブラムシ	少→中 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	鹿児島 R2	ワタアブラムシ	少→多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	千葉 R3	ワタアブラムシ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	茨城 R3	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-46 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（メロン、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		病虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用液量 (mL/株)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
メロン	滋賀 R2	オニシツコナジラミ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植当日	育苗ポット灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R2	タバコナジラミ	中 (放虫)	500 0.022	50	定植当日	育苗ポット灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-47 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（メロン、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
メロン	千葉 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	千葉 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	1,000 0.011	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	2,000 0.005	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R2	ワタアブラムシ	中→甚	1,000 0.011	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R2	ワタアブラムシ	中→甚	2,000 0.005	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	熊本 R2	ワタアブラムシ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	千葉 R3	ワタアブラムシ	多	1,000 0.011	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R3	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-48 : エフィコン SL の薬効・薬害試験 (メロン、コナジラミ類、散布) 結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
メロン	静岡 H29	タバココナジラミ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認められ なかつた。
メロン	高知 H29	タバココナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認められ なかつた。
メロン	静岡 H30	タバココナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認められ なかつた。
メロン	高知 H30	タバココナジラミ	中	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認められ なかつた。
メロン	静岡 R1	タバココナジラミ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認められ なかつた。
メロン	鹿児島 R1	タバココナジラミ	多 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかつた。
メロン	熊本 R1	タバココナジラミ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかつた。

(17) てんさい

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-49 : エフィコン SL の薬効・薬害試験 (てんさい、アブラムシ類、灌注) 結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/冊)*	使用時期	使用方法	薬効
てんさい	北海道 R1	モモアカアブラムシ	甚 (放虫)	100 0.108	1	定植 2日前	灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。
てんさい	北海道 R2	モモアカアブラムシ	甚 (放虫)	100 0.108	1	定植 前日	灌注	無処理区と比較して効果 が認められなかつた。
てんさい	北海道 R3	モモアカアブラムシ	甚 (放虫)	100 0.108	1	定植 当日	灌注	無処理区と比較して効果 が認められたが、その程 度は低かつた。
てんさい	千葉 R3	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	100 0.108	1	定植 当日	灌注	無処理区と比較して効果 が認められたが、その程 度は低かつた。

*: 冊はペーパーポットを示す。

表 1-50 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（てんさい、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
てんさい	北海道 H29	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 H29	モモアカアブラムシ	甚→多 (放虫)	4,000 0.003	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 H30	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 H30	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	4,000 0.003	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 R1	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 R1	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	4,000 0.003	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

(18) ばれいしょ

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-51 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（ばれいしょ、アブラムシ類、植溝内土壤散布）

結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/10 a)	使用時期	使用方法	薬効
ばれいしょ	北海道 H29	ジヤガイモヒゲ ナガアブラムシ モモアカアブラムシ	少 中	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壤 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。
ばれいしょ	北海道 H30	ジヤガイモヒゲ ナガアブラムシ	極少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壤 散布	効果の確認はできなかった。
ばれいしょ	北海道 H30	ジヤガイモヒゲ ナガアブラムシ モモアカアブラムシ	中 少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壤 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。
ばれいしょ	北海道 R1	ジヤガイモヒゲ ナガアブラムシ	中 (放虫)	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壤 散布	効果の確認はできなかった。
ばれいしょ	北海道 R1	ジヤガイモヒゲ ナガアブラムシ	少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壤 散布	無処理区と比較して効果が認められた。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/10 a)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ばれいしょ	長崎 R1	ワタアブラムシ	少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壤 散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 R2	ジヤカイモヒゲ ナガアブラムシ	多 (放虫)	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壤 散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 R2	ジヤカイモヒゲ ナガアブラムシ モモアカアブラムシ	少 少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壤 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	長崎 R1	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	少 少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壤 散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-52 : エフィコン SL の薬効・薬害試験 (ばれいしょ、アブラムシ類、散布) 結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害	薬害
ばれいしょ	北海道 H29	モモアカアブラムシ	中	2,000 0.005	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 H29	モモアカア布拉ムシ	中	4,000 0.003	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	茨城 H29	モモアカア布拉ムシ チューリップヒゲナガアブラムシ ワタアブラムシ	中 少 中	2,000 0.005	塊茎形成期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	茨城 H29	モモアカア布拉ムシ チューリップヒゲナガア布拉ムシ ワタア布拉ムシ	中 少 中	4,000 0.003	塊茎形成期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ばれいしょ	長崎 H29	ワタアブラムシ	多→甚	2,000 0.005	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	長崎 H29	ワタアブラムシ	多→甚	4,000 0.003	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 H30	ジヤガイモ ケナガアブラムシ モモアカアブラムシ	中 中	2,000 0.005	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 H30	ジヤガイモ ケナガア布拉ムシ モモアカアブラムシ	中 中	4,000 0.003	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	茨城 H30	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	茨城 H30	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	4,000 0.003	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	長崎 H30	ワタアブラムシ	やや多 → やや少	2,000 0.005	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	長崎 H30	ワタアブラムシ	やや多 → やや少	4,000 0.003	栄養成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 R2	ジヤガイモ ケナガア布拉ムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	栄養成長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 R2	ジヤガイモ ケナガア布拉ムシ	少 (放虫)	4,000 0.003	栄養成長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

(19) だいず

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-53 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（だいず、アブラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
だい ず	北海道 H29	ジャガイモ モヒゲナガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい ず	北海道 H29	ジャガイモ モヒゲナガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	4,000 0.003	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい ず	兵庫 H29	ダイズアブラムシ	中	2,000 0.005	子実肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい ず	兵庫 H29	ダイズアブラムシ	中	4,000 0.003	子実肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい ず	北海道 H30	ジャガイモ モヒゲナガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい ず	北海道 H30	ジャガイモ モヒゲナガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	4,000 0.003	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい ず	岡山 H30	ダイズアブラムシ ジャガイモ モヒゲナガアブラムシ	少 少	4,000 0.003	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい ず	高知 H30	マメアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい ず	高知 H30	マメアブラムシ	中 (放虫)	4,000 0.003	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい ず	北海道 R1	ジャガイモ モヒゲナガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	効果の確認はできなかつた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
だい す	北海道 R2	ジヤガイ モヒゲナ ガアブラ ムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい す	北海道 R2	ジヤガイ モヒゲナ ガアブラ ムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	発芽期~栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	第1回散布7日後には初生葉の葉先が褐変する薬害が処理区全体に認められたが、その後生育には影響なく、実用上問題無いと考えられた。
だい す	宮崎 R2	ジヤガイ モヒゲナ ガアブラ ムシ	少	2,000 0.005	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だい す	宮崎 R2	ジヤガイ モヒゲナ ガアブラ ムシ	少	4,000 0.003	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

②0 茶

薬効・薬害試験の結果、チャノミドリヒメヨコッバイ及びチャノキイロアザミウマに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-54 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（茶、チャノミドリヒメヨコバイ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
茶	静岡 H29	チャハミド リヒメヨコ バイ	虫数:少→中 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 H29	チャハミド リヒメヨコ バイ	虫数:少→中 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	鹿児島 H29	チャハミド リヒメヨコ バイ	被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
茶	静岡 H30	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:中→多 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 H30	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:少 被害芽率:多	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	鹿児島 H30	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:中～多 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R1	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:少 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	滋賀 R1	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:甚 被害芽率:甚	1,000 0.011	三番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	鹿児島 R1	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:多 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R2	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:多→少 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	愛知 R2	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:中→多 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	三重 R2	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:少→中 被害芽率:甚	500 0.022	一番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	滋賀 R2	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:少 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R2	チャバミド リヒメヨコ バイ	虫数:少 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-55 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（茶、チャノキイロアザミウマ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
茶	静岡 H29	チャノキイロアザミウマ	中→少	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 H29	チャノキイロアザミウマ	中→少	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R1	チャノキイロアザミウマ	中→少	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかつた。	薬害は認められなかつた。
茶	三重 R1	チャノキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかつた。
茶	福岡 R1	チャノキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	秋冬番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
茶	静岡 R2	チャノキイロアザミウマ	中→少	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかつた。	薬害は認められなかつた。
茶	三重 R2	チャノキイロアザミウマ	少	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかつた。
茶	福岡 R2	チャノキイロアザミウマ	中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
茶	愛知 R3	チャノキイロアザミウマ	少→中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかつた。
茶	滋賀 R3	チャノキイロアザミウマ	中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
茶	福岡 R3	チャノキイロアザミウマ	少→中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかつた。
茶	熊本 R3	チャノキイロアザミウマ	中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかつた。	薬害は認められなかつた。

(3) 薬害

① 対象作物への薬害

表 1-1 から表 1-55 に示した薬効・薬害試験において、キャベツに灌注処理した場合に生育遅延が認められた。その他の作物については、実用上問題となる薬害は認められなかつた。

エフィコン SL (ジンプロピリダズ 10.8 %乳剤) を用いて実施した薬害試験の結果概要を表 1-56 及び表 1-57 に示す。試験の結果、りんごの品種「秋映」、ぶどう、トマト、きゅうり及びなすに薬害が認められた。

エフィコン SL (ジンプロピリダズ 10.8 %乳剤) を用いて実施した茶の残臭試験の結果概要を表 1-58 に示す。残臭試験の結果、摘採 1 日前の使用において薬臭は認められなかつた。

以上の結果から、野菜類に灌注処理する場合並びにりんご及びぶどうに対する薬害に関する注意事項が必要と判断した。

その他の申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

表 1-56 : エフィコン SL の薬害試験結果概要 (散布)

作物名	試験 場所 実施 年度	試験条件				結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	処理時期	使用 方法	
りんご (秋映) (ふじ) (シナゴーラト)	長野 R4	500 1,000 2,000	0.022 0.011 0.005	生育期	散布	試験した 3 品種のうち、「秋映」のみで 2000 倍、1000 倍、500 倍(倍量)の希釈で葉に褐点症状が確認された。 「ふじ」、「シナゴーラト」に対しては、1000 倍と 500 倍(倍量)で薬害症状は確認されなかつた。
ぶどう	山梨 R3	1,000	0.011	生育期 (落花直後 小豆大期 大豆大期 袋かけ前)	散布	落花直後、小豆大期での散布では薬害、汚れ、果粉溶脱は認められなかつた。 大豆大期の散布では薬害、汚れは認められなかつたが、実用上問題にならない程度の果粉溶脱が認められた。 袋掛け前の散布では薬害、汚れは認められなかつたが、実用上問題になる果粉溶脱が認められた。

表 1-57 : エフィコン SL の薬害試験結果概要 (育苗ポット灌注)

作物名	試験 場所 実施 年度	試験条件					結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/株)	処理 時期	使用 方法	
トマト	千葉 H30	250	0.043	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、処理 7 日後～14 日後に葉縁部の壞死、およびそれに伴う葉の変形が見られた。

作物名	試験 場所 実施 年度	試験条件					結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/株)	処理 時期	使用 方法	
トマト	千葉 H30	500	0.022	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、処理7日後～14日後に葉縁部の壊死、およびそれに伴う葉の変形が見られた。
きゅうり	千葉 H30	250	0.043	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、処理7日後～14日後に葉縁部に若干の壊死、およびそれに伴う葉の変形が見られた。
きゅうり	千葉 H30	500	0.022	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、処理7日後～14日後に葉縁部に若干の壊死、およびそれに伴う葉の変形が見られた。
なす	千葉 H30	250	0.043	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、処理7日後～14日後に葉縁部の壊死がみとめられた。250倍区では葉縁部の壊死とそれに伴う葉の中央部の壊死・変形が見られた。
なす	千葉 H30	500	0.022	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、処理7日後～14日後に葉縁部の壊死がみとめられた。250倍区では葉縁部の壊死とそれに伴う葉の中央部の壊死・変形が見られた。

表 1-58 : エフィコン SL の茶の残臭試験結果概要

作物名	試験 場所 実施 年度	試験条件				結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	処理時期	使用 方法	
茶	福岡 R2	500	0.022	摘採 1, 3, 7, 14 日前	散布	いずれの時期も薬臭は認められなかった。
	宮崎 R2	500	0.022	摘採 1, 3, 7, 14 日前	散布	いずれの時期も薬臭は認められなかった。

② 対象作物以外の作物への薬害

表 1-1 から表 1-58 に示した薬効・薬害試験及び薬害試験において、9科 20 作物に対して本剤を処理した結果、キャベツで生育不良、トマト、きゅうり及びなすで葉縁の壊死及び変形、りんごの品種「秋映」で葉に褐点症状、ぶどうで果粉溶脱が認められたが、他の作物では実用上問題となる薬害は認められなかった。

キャベツ、トマト、きゅうり及びなすの薬害は苗に対する灌注処理により発生しており、本剤を希釈して散布する場合においては問題ないと判断した。

りんごの品種「秋映」に対する薬害については、使用上の注意事項で飛散しないよう記載されていることから、問題ないと判断した。

ぶどうの果粉溶脱については、果実に直接散布しない限り発生する可能性は低いと考えられることから、問題ないと判断した。

以上のことから適用作物の周辺で栽培される作物への薬害について問題ないと判断した。

